



カトリック新潟教区
編集発行人 教区報編集部
〒951-8106
新潟市中央区東大畑通1-656
TEL. 025-222-7457
FAX. 025-222-7467

2008年

司教司牧書簡を公表

福音宣教の道筋を明示

菊地功司教は去る8月15日、司牧書簡をもって福音宣教の使命は私たち一人ひとりのすべてに与えられた使命であると全教区民に呼びかけ、新潟教区の福音宣教の基本的な方向性、すなわち新潟教区の宣教司牧方針を定めて、これからの福音宣教の道筋を明示された。(要旨)

新潟教区の福音宣教における最優先課題

07年4月に設立された司祭、修道者、信徒の代表からなる新潟教区宣教司牧評議会の二回の全体会議を経て、次の三つの分野を最優先課題として取り上げた。

- 一、世代や国籍を超えた交わりの共同体を構築する。
- 一、教区全体の情報共有のネットワークを生み出す。
- 一、継続した信仰養成を充実させ、成熟した信仰者への脱皮を図る。

この最優先課題の具体的な取り組み

世代や国籍を超えた交わりの共同体を構築する
青少年の教会離れや、いわゆる滞日外国籍信徒との関わりに

のためには既存の小教区の組織体を見直す必要も出てくるかも知れない。

とりわけ滞日外国籍信徒にあつては、小教区に迎えることにとどまらず一緒にあって共同体を作っていく仲間であるという意識を持ち、互いに考え方の違いを乗り越えて協力する「姿勢」を生み出していただきたい。

教区においては、09年度に青少年委員会や難民移住移動者(滞日外国籍信徒)委員会を再編し、実際に活動に携わっておられる信徒の方々も含めて新たな委員を任命する。

各地区においては、この様々な課題への取り組みを司祭だけではなく、信徒や修道者との協力の下、「司牧チーム」として位置づける可能性を探っていたきたい。

教区全体の情報共有のネットワークを生み出す
地理的な条件のために、教区内の様々なレベルで情報の共有ができていないことが課題として指摘された。

教区では教区広報委員会の再編成と各地区からの委員選出を視野に入れて、教区事務局を中心とした情報共有の適正なあり方としての検討を教区事務局長を責任者として早急に行い、09年度を

目指して各地区からの信徒の委員を任命し、それぞれの分野での情報の共有を図ることとする。
継続した信徒養成を充実させ

せ、成熟した信仰者への脱皮を図る

信徒の継続養成の必要性やカテキズムを信徒リーダーが教えるための養成、典礼の奉仕者養成など研修の必要性が課題として指摘された。

教区として担当司祭と信徒の協力者からなる「信徒養成を考えるグループ」を設立し現場の信仰養成担当者の助けとなることを目指す。

各小教区にあつては、求道者へのカテキズムや結婚講座を含めて信仰養成を最重要課題のひとつと捉え、司祭に任せきりにするのではなく信徒も共に心を配るようにしていただきたい。

そのために小教区にあつては、信徒の中から信仰養成を配慮する責任者を任命するように心がけていただきたい。



菊地司教様は私たちに呼びかけられます。

キリスト者が新潟教区の全人口の0・16%に満たない少数派であるこの地において、福音

宣教の理想を語ることは容易であつても、それを実践することは様々の困難が伴うだろう。

しかしその困難さを嘆いてばかりいても何もはじまらない。いま教会を作り上げている私たち自身から一歩を踏み出そう。世界の回心は私たち自身の回心から始まるからです。

今まで以上に教会に関わりましょう。小教区を「日曜日だけの教会」にせず、時間が許す限りご聖体の前で祈り、兄弟姉妹と共に祈りを分かち合うことによつて時を歩んでいきましょう。

パウロ年にあたり使徒の次の言葉に勇気を頂きたいと菊地司教様は私たちに呼びかけられました。

「御言葉を宣べ伝えなさい。折が良くても悪くても励みなさい。とがめ、戒め、励ましなさい。忍耐強く、十分に教えるのです。」(二テモテ4章2節)

(司牧書簡の要旨を掲載。全文は8月15日付で全教区民に届けられている。教区報編集部)



励まし合って小教区共同体を育てよう

第二回

宣教司牧評議会

4月29日10時から新潟カトリックセンターで第二回教区宣教司牧評議会が開催され「教区における福音宣教の優先課題とその課題に取り組むために教区として具体的にどうすべきか」について、菊地司教様の諮問に答えて各評議員から活発な意見と報告が述べられた。

昨年の4月に発足したこの宣教司牧評議会は教区全体の宣教司牧を推進するための重要事項を司教の諮問を受けて検討するものであつて今回の開催が二回目、菊地司教様出席のもと、秋田、山形、新潟、新発田、長岡の各地区から地区長(司祭)とそれぞれ二人の信徒評議員と新潟地区カトリック女性会の会の評議員の17人が集った。

主な意見は、若者たちとの関わりと活動の支援、滞日外国籍信徒司牧の世代や生活習慣を越えた交わりの問題、信徒の信仰育成の充実などの課題、教区の中での小教区の宣教や司牧行動の情報共有の希薄さなどシステム強化の課題が指摘された。

評議会の終わりに「今回の話し合いに基づいて、具体的な取り組みをまとめて教区の皆さんにお願いするので、各小教区の共同体が共に新潟教区という共同体を一緒に形づくっているのだという意識を持って、それぞれの場でのご努力と貢献をお願いしたい」との司教様のご挨拶をいただき15時に閉会した。

殉教者を学ぶ

新潟教区信徒大会 秋田で

9月14日と15日の両日、聖霊女子短期大学(秋田市寺内)を会場にして新潟教区信徒大会を開催した。三年に一回開かれる今年の第17回大会は初めて秋田地区内が開催地となつて、三〇〇人を超えた参加者で会場の大講堂はあふれ、「殉教者を学ぶ」の大会テーマに、今秋11月24日長崎で開かれる一八八殉教者列福式の実行委員として中心的役割を果たしておられる溝部脩司教(高松教区長)の二日間にあつた基調講話に熱心に耳を傾けた。



殉教者のメッセージを聴く

溝部司教は、私たちは信仰の先達である多くの殉教者のメッセージから何を学ばなければなら

ないかと問いかけられ、特に米沢の殉教者たちのことを引きながら、いくつかの視点から現代の教会についての問題提起があつた。

『現代の教会の活性化や福音宣教の動きに弾みが欠けるのは「教会の環境が恵まれた状況になつてしまつて、お互いに誰かがやってくれると他人まかせの気持ちになつていないだろうか」と厳しく指摘された。



殉教者への熱い想いを語る溝部司教

はとらなかつた。信徒代表を中核とした信徒の共同体が育ち、数少ない司祭は各地を巡回して信徒たちと連絡をとりながらミサやゆるしの秘跡の執行と各地の信徒リーダーの霊的指導と教育に専念した。

信徒にも役割があつて、特に信徒のリーダーは受洗後間もない新信徒の自宅を訪ねて信仰の深化や青少年の育成に協力し

た。』

二日目の講話は、九州の小倉、大分、熊本の三カ所で斬首が行われた細川忠興の家臣加賀山隼人とその家族の小笠原玄也の妻みよと八人の子供たちと四人の召使いの殉教から、特に小笠原みよが獄中で書いて親戚や友人に送つた信仰の証しであり現在も残つてゐる遺書から殉教者の言葉を引き、女性の使命感の堅固さと信仰に生き信仰に殉じた母親から問題提起をされた。

とを痛感させられた講話であつた。

二日間ともミサが捧げられ、二日目の大会参加全司祭の共祭ミサを司式された菊地功司教は、説教の中で司教司牧書簡(8月15日付)で全教区民に呼びかけた新潟教区のこれからの福音宣教の道筋と三つの分野の教区の最優先課題を具体的に強調されて、一人ひとりが自らの信仰生活を見直して成熟した信仰者への脱皮を図り、それぞれの小教区共同体の活性化に努めるように説かれた。

秋晴れの恵み多い教区大会であつた。



300人超の参加者が耳を傾けた

福住
長岡地区信徒大会



長岡地区信徒大会は、6月1日長岡福住教会において「殉教者に学ぼう」というテーマで開催されました。

福住幼稚園のホールに、各地から200人ほどの信徒と約50人の子供たちが集いました。

午前は、司教様から「殉教者の生き方に学んで共同体を育てる」という講話をいただきました。その後、10分科会に分かれておのおの共同体のあり方や活動などを振り返りながら話し合いました。

中高生も大人と一緒に話の輪に参加しました。また英語・タガログ語で語り合う分科会もあり、共に分かち合いました。

小学生は、笹だんご作りを通してふれ合い、楽しいひとときを過ごしました。

菊地司教様は「祈り合い、分かち合い、支え合い、学び合う」共同体を育ててほしい。山形の殉教者がそうであったように、

地域社会の人たちから尊敬される信徒の集まりである共同体を育ててほしい。」と話されました。また信仰をもって生きる生き方を通して、今の社会の価値観を変えることこそ福音化である。と英語でのスピーチを交えて熱く語ってくださいました。昼は講演会場と同じ幼稚園のホールで一堂に会して食事をし、和やかに交流をしました。午後は長岡地区の信徒総会で前年度の活動報告と今年度の予定について話し合われました。最後に、長岡地区の神父様方による共祭ミサが捧げられ閉会しました。

(柏崎・中村善子)

柏崎
感謝の集い



7月13日、中越沖地震から一年が経ち、復興と周りの方々のご協力に感謝して、柏崎教会で「感謝の集い」が催されました。マリア会の方々が三五〇人分の食事(カレーライスなど)を

作りました。

ミサの後、百合幼稚園の年長児による発表、新潟総踊りの演舞(新潟の上・中・下越また長野県からも集まって下さいました)が行われました。

柳橋町内、幼稚園児とその保護者、信者が大勢参加して大盛況となりました。

(柏崎教会主任司祭)

シルヴィオ・レオ・バッシ神父)

柏崎
山の家で
ミニコンサート



7月28日、柏崎市谷根の「山の家」で第4回ミニコンサートが開かれました。回を重ねるたびに近所の方々も大勢訪れるようになり、今回は約70人という来場者に恵まれました。

クラシックギターに始まり、サクソフフォン、ピアノとフルートの二重奏と、クラシック音楽からポップスまで多彩な演奏に酔いしれました。特に「千の風になつて」では会場の皆さんと合唱し心にしみる一曲となりました。

柏崎教会の山の家から生まれた音楽の輪がこれからも広がり、皆さんから愛されるものになっていくことを願っています。

(シルヴィオ・レオ・バッシ神父)

秋田地区
教会学校錬成会



7月19日から21日までの三日間、秋田市大平山自然学習センター「まんたらめ」を会場に、秋田地区教会学校錬成会が開催された。秋田、大館、鹿角、土崎の四教会から集まった幼稚園年中児から6年生までの児童22人と、司祭3人、シスター3人、神学生1人、中高生6人を含む28人のスタッフが参加した。

テーマは「愛されている子どもらしく」よろこび。初日は13時30分に土崎教会聖堂で出発式を行い、14時から開所式、オリエンテーションが行われ、16時30分から晴天に恵まれた屋外広場でミサが捧げられた。飯野・永山・伴3人の司祭

による大自然の中でのミサは、小鳥の声の祝福を受け、教会学校らしい爽やかさにあふれていた。夕食後はゲームを楽しみ、夜は再び屋外でのキャンドルサービスで神聖な雰囲気味わった。

二日目は主日で、聖体奉仕会を訪ねてミサにあずかり、午後は近くの屋内プール「ザ・ブリン」で楽しく過ごし、夜はキャンプファイヤーを楽しんだ。シスターのお話、歌唱指導なども素晴らしく、聖霊に満たされた三日間は、最終日の午前、秋田教会の聖堂でのミサで締めくくられ、祈りと感謝のうちに来年の再会を約束して閉会となった。

参加児童、司祭、シスター、スタッフ、それぞれの世代が教会の名のもとに家族として集い、祈りのうちに親睦を深めたこの錬成会の今後の発展を期待するばかりである。

(石崎利巳)

鶴岡
ロウソクミサ

ペトロ岐部と一八七殉教者列福実行委員会のもとに集まった青年たちが企画した「一本のロウソクを全国でリレーして、同じ意向で青年ミサを捧げよう」という一本の大ロウソクが、7月19日に前開催地の横浜教区から二人の青年の手で鶴岡(三県の中心地点ということ)にリレーされて、翌20日14時から鶴岡教会で菊地司教司式のロウソク

クリレーミサ(証し灯)が捧げられた。大ロウソクは2月24日に長崎大司教館の式ミサからスタートし、鹿児島、仙台、岡山(広島教区)、高松、東京、名古屋、横浜、鶴岡(新潟教区)、岩手山(カトリックボーイスカウト)、札幌、宮崎(大分教区)、京都と各教区を次々とリレーして、11月24日の殉教者列福式の長崎のゴールを目指している。鶴岡では初日の19日は横浜からロウソクを運んできた二人の青年のほか仙台教区と東京教区からの青年や地元信徒たちをはじめ酒田、新庄の青年にロシア・ハバロフスクで宣教している聖母訪問会のシスター二人も加わり教会の中庭でバーベキューの交流会を設けた。

青年の一人は「長崎でスタートして全国を一つにつなげてくれた一本のロウソクに勇気づけられ、心を一つにして殉教の苦難と列福の喜びを分かち合いながら、殉教者の残した信仰を多くのの人々に伝える努力をした」と語ってくれた。



殉教をテーマに分かち合い

若者たちの呼びかけ

8月22日から2泊3日で新潟・新発田地区青少年会が新潟カトリックセンターで夏期合宿をし、大人たちに呼びかけて「殉教」をテーマに分かち合いをした。

若者たちの合宿者は20人(男性7、女性13)で三日間の最後

には「殉教者ベトロ岐部神父について」と「殉教について」のテーマでの分かち合いには信徒の大人たちも加わった。

この分かち合いは若者たちからの提案で参加は30人(若者12人・大人男女は18人)。閉会後に感想を聞いた。

○大人を入れた分かち合いは、子供だけでは考えられないような広い視点からできて良かった。(新潟・高校生・男性)

○たくさんさんの分かち合いが出来る良い経験になった。(青山・高校生・女性)

○いろんな人の考えが聞けて良かった。(新潟・中学生・女性)

性)

○いろいろの話が聞けた。自分の考えとは違った考えも話されて、すごいと思った。(青山・小学生・女性)

○途中からの参加だったけど、信仰について大人と話したことがなかったのも、よい経験になった。(新潟・高校生・男性)

○内容がいつもより濃い分かち合いで良かった。(新潟・青年・女性)

○大人と分かち合いができてとても新鮮な体験となった。(寺尾・大学生・男性)

○内容が濃くて充実した分かち合いでした。(寺尾・高校生・男性)

○分かち合いでは自分では考え

もしなかった意見がたくさんあって、考えさせられることも多く、学ぶことが多かった。(新潟・専門学校生・女性)

○大人も一緒に分かち合いは初めての試みで、自分の考えを違う世代の人に聞いてもらったり、大人の考えを聞いたりといった貴重な経験ができて良かった。これからも継続したい。地区に限らず教区の様々な人達とも世代を超えた分かち合いができた良いと思った。(青山・大学生・女性)

○世代を超えた分かち合いに参加して、私たち大人は自分たちの信仰を次世代の子供たちに伝える努力をしてきたかどうかと反省させられた。自らの反省の上に立って、次世代を育てることの重大さを重く感じた。こうした分かち合いは続けたほうがいい。(新潟・壮年・男性)

海外からの人達が集う

6月15日(日)新潟教区難民移住移動者委員会の主催で初めてとなる「海外からの移住・移動者の集会」(テーマは新しく

若い元気な信仰の証人となるために)が新潟清心女子中学・高等学校(新潟市西区五十嵐)の体育館と聖堂を会場に開催され、日本人信徒も含め八〇人近い参加があった。

今回の集まりはフィリピン人信徒が多かったが子供連れやご

主人の参加もあり、食事タイム後は小グループで分かち合い。子供たちは隣りの第2体育館でシスターの聖書のお話のあとには持ち込まれた太鼓を叩いて踊ったりで大喜び。

午後3時頃から聖堂で菊地司教様司式の英語ミサを捧げた。英語と日本語の説教で司教様は福音(マタイ9の37)の「収穫は多いが、働き手が少ない」の

箇所を引き、日本人の私たちも海外から来た人たちも、この日本という刈り入れ場で働くため



明るく生き生きと

に遣わされた「働き手」であるという話をされて、殉教者特別年であることから、殉教者たちの

(新潟支部)

JCNAの活動

日本カトリック看護協会

看護協会



妙高教会で

6月14日、15日の両日妙高教会で新潟支部会を開いて、看護活動の現状報告の後、カンドウ

チ・マリオ・タルチシオ神父様の指導で祈りと黙想のひと時をもった。

JCNAはカトリックナースの会員によって構成されている全国の看護師組織で、新潟支部会員は現状16人(新潟・胎内・

魚沼・糸魚川に各1人、長岡・柏崎・上越には各4人)になっている。

11月の長崎での列福式には、新潟支部からは救護班として二人が参加する。

来年は

二つの全国大会へ

来年の5月16日(土)には山形県米沢市で新潟教区殉教者列福記念式典が執り行われるほか、4月と8月には新潟市を会場にした二つの全国大会の開催が決まっています。いずれも開催地実行委員会が組織された。

二つの大会開催日は次のとおりで、追って準備をすすめていく実行委員会から呼びかけと詳細な要請が発表される。

第10回日本カトリック・ボラ

ンティア協議会新潟大会

開催日 09年4月18日(土)

会場 新潟カトリック教会

参加者(予定) 二〇〇人

この協議会は1981年に東京において第一回大会を行いその後、各教区において三年毎に開催してきた。その間一貫してテーマは「地球単位で行動出来るボランティアをめざして」を掲げ、大会ごとにその時にふさわしいサブテーマをつけて開催してきた。

今回のテーマは「災害時のボランティアネットワーク(あなただっただけのように関わる)」としている。信徒の中には海外支援のグ

ループを作っている方、録音・手話・傾聴ボランティアとして活動している方、病院ボランティアや教会外のボランティア組織に属している方等かなり活発に行われているが、すでにボランティア活動をしている方も、これからボランティアを始めてみたいと思われる方も、一人でも多くの方々の大会参加を願っている。

第10回日本カトリック障害者連絡協議会新潟大会

開催日 09年8月1日(土)

会場 新潟市総合福祉会館

参加者(予定) 二〇〇人

この協議会(略称カ障連)は、京都において第一回大会を行い、その後、各教区において三年毎に開催してきた。

過去の全国大会はその教区内の既存の障害者団体(当事者とボランティア)が中心になって準備してきたが、新潟教区内では登録された既存の障害者団体がいないので、この大会が障害というからし種が蒔かれることになった。この機会に一人でも多くの障害を持つておられる方たちに大会に参加されるように呼びかけている。

また、全国大会に参加された障害を持つている人や家族が困難な生活の中にあっても、明るく自分の使命を見いだしておられるのを感じて頂き、障害が恵みとして感じられる人が一人でも多く増えて頂くことが大会の目的でもあると関係者は語る。